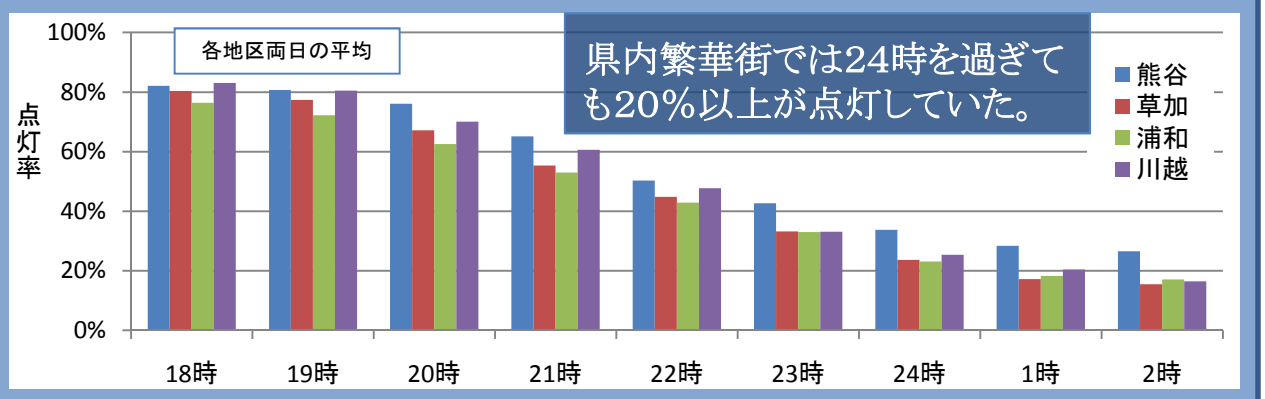
深夜化するライフスタイルの見直し　＜実態調査の結果＞

【実態調査】

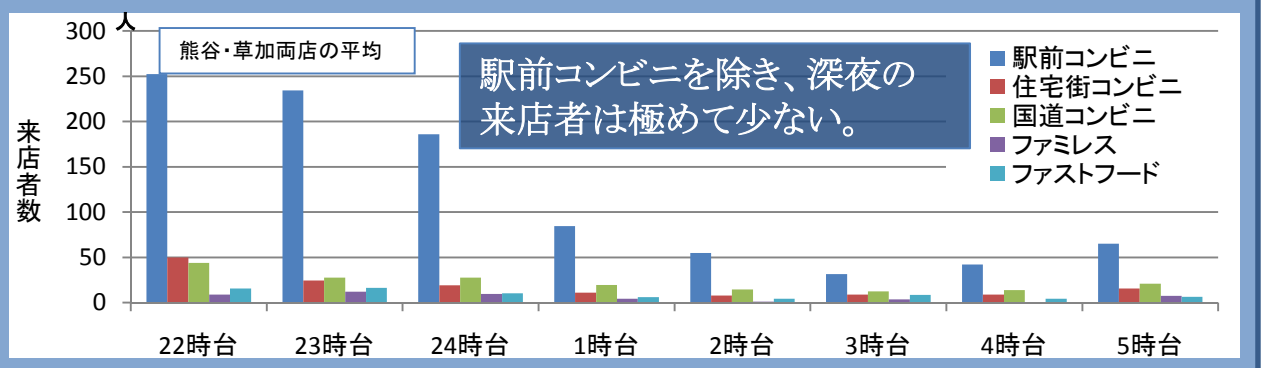
県内繁華街における看板・ネオン、オフィスの点灯状況

熊谷駅北口（9/4・10）
草加駅東口（9/4・10）
浦和駅西口（9/18・24）
川越駅北口（9/18・24）



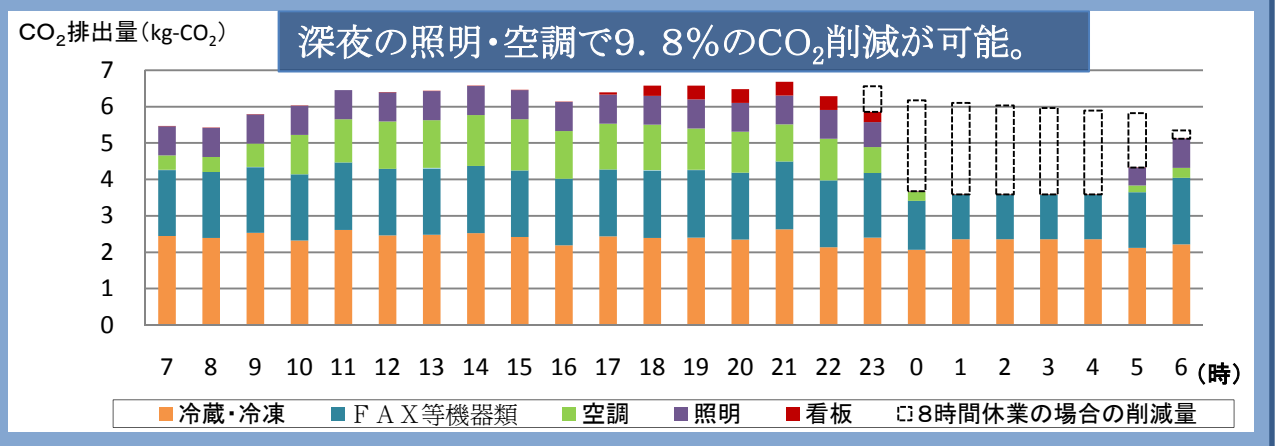
24時間営業店舗利用状況

（熊谷市内・草加市内で、
それぞれコンビニ3店、
ファミリーレストラン1店、
ファーストフード店1店）



24時間営業店舗の電気使用量の実態

7月3日（金）0:00～
9日（木）24:00［7日間］
照明・空調・冷蔵
県内某コンビニ（1店舗）



【県内全体で推計】

ビジネススタイルの見直し　→　<u>年間約28万トン</u>　…　（Ⓐ＝（ア）＋（イ））

（ア）県内オフィス・事務所等で残業時間を1時間短縮
　→　年間約21万トン（県内業務部門の3．8%）削減

（イ）深夜営業店舗等の営業時間短縮
- 営業時間を24時間から16時間に短縮　→　年間2万9千トン～3万6千トン
- 自動販売機について、屋外で昼・深夜の18時間消灯、屋内で常時消灯　→　年間2万9千トン
- 小計　→　年間5万8千トン～6万5千トン（県内業務部門の1%）削減

深夜化するライフスタイル・ビジネススタイルの見直しは温暖化対策の面でも必要かつ実施可能。

※　**ライフスタイルの見直し**

県内全世帯で就寝時刻を1時間早める　→　**<u>年間約12万トン</u>**（県内家庭部門の1．7%）削減　…　Ⓑ

<u>ビジネススタイル・ライフスタイルの見直し合計（Ⓐ+Ⓑ）　→　約40万トン（県全体の排出量の1%）削減</u>